問題

はき・あまし国家試験問題　リハビリテーション医学　49 問

○○療法＆リハビリテーション（ 10 問 ）	はき国家試験　リハビリテーション医学

【○○療法】

はき 1-92　誤っているのはどれか。

1. 超音波療法は一種の温熱療法である。
2. 紫外線療法は紫外線の化学作用を利用している。
3. 低周波療法は低周波の温熱作用を利用している。
4. 水治療法は水の温度、浮力、抵抗などを利用する療法である。

はき 2-91　運動法について正しい記述はどれか。

1. フレンケル体操は慢性関節リウマチのための体操である。
2. 等尺性運動は等張性運動より筋力増強効果が大きい。
3. 運動によって肺活量は増加しない。
4. 松葉杖は片麻痺の歩行訓練に適している。

はき 4-92　運動療法について誤っているのはどれか。

1. ブルンストローム法：関節可動域訓練
2. デローム法　　：筋力増強訓練
3. フレンケル体操　　：協調性訓練
4. ボバース法　　：神経筋再教育

はき 10-94　温熱療法の効果で誤っているのはどれか。

1. 血液循環の改善
2. 新陳代謝の抑制
3. 痛みの軽減
4. 痙性の抑制

はき 15-87　痙縮の理学療法として有効でないのはどれか。

1. 温熱療法
2. 痙縮筋の筋力増強
3. 痙縮筋の持続伸張（ストレッチ）
4. 拮抗筋の収縮

はき 20-88　深部組織への温熱効果が最も高い物理療法はどれか。

1. 低周波療法
2. 超音波療法
3. 紫外線療法
4. 赤外線療法

はき 23-81　温熱療法はどれか。

1. 紫外線療法
2. 極低温法
3. 低周波電気療法
4. 極超短波療法

【リハビリテーション】

はき 18-86　医学的リハビリテーションチームを構成するメンバーでないのはどれか。

1. 理学療法士
2. 臨床心理士
3. ソーシャルワーカー
4. ホームヘルパー

はき 20-85　回復期リハビリテーション病棟における評価会議について適切でない記述はどれか。

1. 病棟看護師は参加する。
2. 評価が完了してから治療を開始する。
3. 治療経過によりゴール設定を変更する。
4. すべての症例に行う。

はき 26-86　医学的リハビリテーションで、在宅復帰への対応として積極的に推し進めるべきことはどれか。

1. 廃用症候群の予防
2. 障害受容への援助
3. 職業訓練
4. 麻痺の改善

○○療法＆リハビリテーション（ 39 問 ）	あまし国家試験　リハビリテーション医学

【○○療法】

あ 1-101　運動療法で正しいのはどれか。

1. 筋肉の等尺性収縮は筋力増強には効果がない。
2. 関節可動域訓練は拘縮の予防または治療を目的としている。
3. 神経筋促通法は麻痺の自然回復が止まってから行う。
4. 骨折後の筋力増強訓練にブルンストローム法が用いられる。

あ 2-97　運動療法の中止が必要な状況はどれか。

1. 脈拍数が 1 分間 100 以上
2. 血圧が収縮期 150mmHg 以上
3. 呼吸数が 1 分間 20 以上
4. 期外収縮が 1 分間 20 以上

あ 2-102　理学療法について正しい記述はどれか。

1. 超短波には温熱作用はない。
2. 低周波通電によって神経や筋肉が刺激される。
3. 関節可動域訓練は早期から始めない方がよい。
4. 関節の屈伸運動は等尺性運動である。

あ 2-103　水治療法について正しい記述はどれか。

1. 浮力は運動に対して不利な作用をする。
2. 温水と冷水を交互に浴びるのは有害である。
3. 温水は疼痛を増強させる。
4. ハバードタンクで全身運動浴を行う。

あ 3-98　運動療法を中止すべき状態はどれか。

1. 収縮期血圧 180mmHg
2. 収縮期血圧 160mmHg
3. 拡張期血圧　95mmHg
4. 拡張期血圧　85mmHg

あ 4-100　運動療法で正しい記述はどれか。

1. 伸張運動は筋力を増す。
2. 関節モビリゼーションは痛みと関係なく行う。
3. 関節の可動域訓練は筋力のない患者にも行う。
4. 抵抗運動は筋力 2（可）の患者に行う。

あ 4-101　温熱刺激の作用で誤っている記述はどれか。

1. 末梢血管が拡張する。
2. 代謝が低下する。
3. 関節の可動域の増加を助ける。
4. 筋のスパズムが軽減する。

あ 5-98　温熱の作用で誤っているのはどれか。

1. 疼痛の軽減
2. 関節可動域の増加
3. 筋スパズムの増強
4. 末梢血管の拡張

あ 6-101　水治療法に含まれないのはどれか。

1. 渦流浴
2. パラフィン浴
3. 交代浴
4. 気泡浴

あ 7-101　理学療法の内容で誤っているのはどれか。

1. 関節可動域訓練
2. 治療体操
3. 電気治療
4. 職業訓練

あ 11-106　疾患とその治療との組合せで誤っているのはどれか。

1. 関節リウマチ　　―　パラフィン浴
2. 肩関節周囲炎　　―　ホットパック
3. 総腓骨神経麻痺　―　低周波療法
4. 閉塞性動脈硬化症　―　寒冷療法

あ 11-97　温熱療法に用いられないのはどれか。

1. 極超短波
2. 低周波
3. 赤外線
4. 超音波

あ 12-106　体内金属埋め込み部位への施行が禁忌なのはどれか。

1. 赤外線
2. 極超短波
3. ホットパック
4. アイスマッサージ

あ 13-99　運動療法の効果で誤っているのはどれか。

1. 筋力の増大
2. 関節拘縮の改善
3. 断裂した靭帯の修復
4. 持久力の改善

あ 13-100　温熱効果が期待できないのはどれか。

1. 赤外線療法
2. 超音波療法
3. 低周波療法
4. 極超短波療法

あ 15-94　マイクロウェーブ（極超短波）の禁忌とされるのはどれか。

1. 人工透析患者
2. 肝不全患者
3. 慢性呼吸器不全患者
4. 心臓ペースメーカー患者

あ 15-93　運動療法の効果で誤っているのはどれか。

1.　最大酸素摂取量の増加
2.　収縮期血圧の低下
3.　腎機能の改善
4.　糖代謝の改善

あ 16-95　温熱療法について誤っている記述はどれか。

1.　パラフィン浴は通常 50～55℃で用いる。
2.　超音波は深部温熱に分類される。
3.　極超短波は皮下に金属がある場合には禁忌とされる。
4.　紫外線を用いる。

あ 17-94　温熱療法で直接深部を温めるのはどれか。

1.　ホットパック
2.　パラフィン浴
3.　赤外線
4.　超音波

あ 20-95　温熱療法の禁忌はどれか。

1.　関節拘縮
2.　知覚鈍麻
3.　呼吸機能障害
4.　痙性麻痺

あ 20-94　デローム・ワトキンス法で用いる運動療法はどれか。

1.　漸増抵抗運動
2.　等速性運動
3.　持久力運動
4.　持続伸張運動

あ 22-95　整形外科手術と術後の理学療法との組合せで正しいのはどれか。

1.　前腕骨観血的整復固定術 ――――― 患肢荷重訓練
2.　頚椎椎弓形成術 ――――――――― 頚椎牽引
3.　人工股関節置換術 ――――――― 神経筋促通法
4.　前十字靭帯再建術 ――――――― 大腿四頭筋筋力訓練

あ 23-81　筋萎縮を予防する目的で用いる物理療法はどれか。

1.　超音波療法
2.　赤外線療法
3.　ホットパック
4.　低周波電気療法

あ 24-81　温熱療法の効果はどれか。

1. 痙縮増強
2. 末梢血管収縮
3. 組織代謝亢進
4. 筋スパズム増強

あ 28-82　温熱療法の分類で深部熱に属するのはどれか。

1. 渦流浴
2. 極超短波
3. ホットパック
4. パラフィン浴

【リハビリテーション】

あ 6-97　リハビリテーション領域で福祉事務所が主たる役割を担っているのはどれか。

1. 医学的リハビリテーション
2. 社会的リハビリテーション
3. 教育的リハビリテーション
4. 職業的リハビリテーション

あ 8-97　経済的問題の解決を図るリハビリテーションの分野はどれか。

1. 医学的リハビリテーション
2. 教育的リハビリテーション
3. 社会的リハビリテーション
4. 職業的リハビリテーション

あ 9-98　リハビリテーションにおける目標の設定で誤っているのはどれか。

1. 疾病の治癒を目指す。
2. 障害者のニーズに応じて行う。
3. 最大限の身体機能を予測して行う。
4. 補装具製作を計画に入れる。

あ 14-95　リハビリテーションの理念として誤っている記述はどれか。

1. 障害者も健常者も一緒に社会で生活する。
2. 障害者が日常生活で必要に応じて健常者の助けを借りる。
3. 障害者と高齢者では人間としての社会的価値は異なる。
4. 障害者の自己決定権は尊重される。

あ 18-91　地域リハビリテーションについて正しい記述はどれか。

1. 行政機関は関与しない。
2. 自宅での ADL 自立を目的とする。
3. 障害児は対象とならない。
4. 地域住民も協力する。

あ 21-91　医学的リハビリテーションに該当するのはどれか。

1.　回復期リハビリテーション
2.　就労移行支援
3.　特別支援教育
4.　通所リハビリテーション

あ 21-92　医学的リハビリテーションを担う職種とその内容との組合せで正しいのはどれか。

1.　理学療法士 ――― 嚥下訓練
2.　作業療法士 ――― 自助具作成
3.　言語聴覚士 ――― 利き手交換
4.　義肢装具士 ――― 装具処方

あ 22-92　急性期リハビリテーションとして行うのはどれか。

1.　調理訓練
2.　入浴動作訓練
3.　座位保持訓練
4.　書字訓練

あ 26-84 急性期リハビリテーションとして適切でないのはどれか。

1. 拘縮予防
2. 早期離床
3. 体位ドレナージ
4. 家事動作訓練

あ 27-79　社会的リハビリテーションに該当するのはどれか。

1.　職業訓練
2.　障害者支援施設利用
3.　特別支援教育
4.　廃用症候群予防

あ 25-80　維持期リハビリテーションで主に取り組むべきことはどれか。

1.　麻痺の回復の促進
2.　ＡＤＬの早期獲得
3.　社会参加の促進
4.　早期離床

あ 26-87 回復期リハビリテーションで主に作業療法士が行う項目はどれか。

1. 摂食嚥下訓練
2. 実用的移動手段獲得
3. 床上動作訓練
4. 拘束運動療法(CI 療法)

あ 27-80　リハビリテーションについて正しいのはどれか。

1. 安静のため発症後 1 週間は行わない。
2. 急性期から介護保険の利用が可能である。
3. 回復期には機能訓練を積極的に行う。
4. 高齢者では維持期のリハビリテーションは不要である。

あ 28-80　回復期リハビリテーション病棟で医療チームの構成メンバーとなるのはどれか。

1. 柔道整復師
2. 義肢装具士
3. ジョブコーチ
4. ケアマネジャー

解答

はき・あまし国家試験問題　リハビリテーション医学　49 問

○○療法＆リハビリテーション（ 10 問 ）	はき国家試験　リハビリテーション医学

【○○療法】

はき 1-92　誤っているのはどれか。

1. 超音波療法は一種の温熱療法である。
2. 紫外線療法は紫外線の化学作用を利用している。
3. 低周波療法は低周波の温熱作用を利用している。
4. 水治療法は水の温度、浮力、抵抗などを利用する療法である。

はき 2-91　運動法について正しい記述はどれか。

1. フレンケル体操は慢性関節リウマチのための体操である。
2. 等尺性運動は等張性運動より筋力増強効果が大きい。
3. 運動によって肺活量は増加しない。
4. 松葉杖は片麻痺の歩行訓練に適している。

はき 4-92　運動療法について誤っているのはどれか。

1. ブルンストローム法：関節可動域訓練
2. デローム法　　：筋力増強訓練
3. フレンケル体操　　：協調性訓練
4. ボバース法　　：神経筋再教育

はき 10-94　温熱療法の効果で誤っているのはどれか。

1. 血液循環の改善
2. 新陳代謝の抑制
3. 痛みの軽減
4. 痙性の抑制

はき 15-87　痙縮の理学療法として有効でないのはどれか。

1. 温熱療法
2. 痙縮筋の筋力増強
3. 痙縮筋の持続伸張（ストレッチ）
4. 拮抗筋の収縮

はき 20-88　深部組織への温熱効果が最も高い物理療法はどれか。

1. 低周波療法
2. 超音波療法
3. 紫外線療法
4. 赤外線療法

はき 23-81　温熱療法はどれか。

1. 紫外線療法
2. 極低温法
3. 低周波電気療法
4. 極超短波療法

【リハビリテーション】

はき 18-86　医学的リハビリテーションチームを構成するメンバーでないのはどれか。

1. 理学療法士
2. 臨床心理士
3. ソーシャルワーカー
4. ホームヘルパー

はき 20-85　回復期リハビリテーション病棟における評価会議について適切でない記述はどれか。

1. 病棟看護師は参加する。
2. 評価が完了してから治療を開始する。
3. 治療経過によりゴール設定を変更する。
4. すべての症例に行う。

はき 26-86　医学的リハビリテーションで、在宅復帰への対応として積極的に推し進めるべきことはどれか。

1. 廃用症候群の予防
2. 障害受容への援助
3. 職業訓練
4. 麻痺の改善

○○療法＆リハビリテーション（ 39 問 ）	あまし国家試験　リハビリテーション医学

【○○療法】

あ 1-101　運動療法で正しいのはどれか。

1. 筋肉の等尺性収縮は筋力増強には効果がない。
2. 関節可動域訓練は拘縮の予防または治療を目的としている。
3. 神経筋促通法は麻痺の自然回復が止まってから行う。
4. 骨折後の筋力増強訓練にブルンストローム法が用いられる。

あ 2-97　運動療法の中止が必要な状況はどれか。

1. 脈拍数が 1 分間 100 以上
2. 血圧が収縮期 150mmHg 以上
3. 呼吸数が 1 分間 20 以上
4. 期外収縮が 1 分間 20 以上

あ 2-102　理学療法について正しい記述はどれか。

1. 超短波には温熱作用はない。
2. 低周波通電によって神経や筋肉が刺激される。
3. 関節可動域訓練は早期から始めない方がよい。
4. 関節の屈伸運動は等尺性運動である。

あ 2-103　水治療法について正しい記述はどれか。

1. 浮力は運動に対して不利な作用をする。
2. 温水と冷水を交互に浴びるのは有害である。
3. 温水は疼痛を増強させる。
4. ハバードタンクで全身運動浴を行う。

あ 3-98　運動療法を中止すべき状態はどれか。

1. 収縮期血圧 180mmHg
2. 収縮期血圧 160mmHg
3. 拡張期血圧　95mmHg
4. 拡張期血圧　85mmHg

あ 4-100　運動療法で正しい記述はどれか。

1. 伸張運動は筋力を増す。
2. 関節モビリゼーションは痛みと関係なく行う。
3. 関節の可動域訓練は筋力のない患者にも行う。
4. 抵抗運動は筋力 2（可）の患者に行う。

あ 4-101　温熱刺激の作用で誤っている記述はどれか。

1. 末梢血管が拡張する。
2. 代謝が低下する。
3. 関節の可動域の増加を助ける。
4. 筋のスパズムが軽減する。

あ 5-98　温熱の作用で誤っているのはどれか。

1. 疼痛の軽減
2. 関節可動域の増加
3. 筋スパズムの増強
4. 末梢血管の拡張

あ 6-101　水治療法に含まれないのはどれか。

1. 渦流浴
2. パラフィン浴
3. 交代浴
4. 気泡浴

あ 7-101　理学療法の内容で誤っているのはどれか。

1. 関節可動域訓練
2. 治療体操
3. 電気治療
4. 職業訓練

あ 11-106　疾患とその治療との組合せで誤っているのはどれか。

1. 関節リウマチ　―　パラフィン浴
2. 肩関節周囲炎　―　ホットパック
3. 総腓骨神経麻痺　―　低周波療法
4. 閉塞性動脈硬化症　―　寒冷療法

あ 11-97　温熱療法に用いられないのはどれか。

1. 極超短波
2. 低周波
3. 赤外線
4. 超音波

あ 12-106　体内金属埋め込み部位への施行が禁忌なのはどれか。

1. 赤外線
2. 極超短波
3. ホットパック
4. アイスマッサージ

あ 13-99　運動療法の効果で誤っているのはどれか。

1. 筋力の増大
2. 関節拘縮の改善
3. 断裂した靭帯の修復
4. 持久力の改善

あ 13-100　温熱効果が期待できないのはどれか。

1. 赤外線療法
2. 超音波療法
3. 低周波療法
4. 極超短波療法

あ 15-94　マイクロウェーブ（極超短波）の禁忌とされるのはどれか。

1. 人工透析患者
2. 肝不全患者
3. 慢性呼吸器不全患者
4. 心臓ペースメーカー患者

あ 15-93　運動療法の効果で誤っているのはどれか。

1. 最大酸素摂取量の増加
2. 収縮期血圧の低下
3. 腎機能の改善
4. 糖代謝の改善

あ 16-95　温熱療法について誤っている記述はどれか。

1. パラフィン浴は通常 50～55℃で用いる。
2. 超音波は深部温熱に分類される。
3. 極超短波は皮下に金属がある場合には禁忌とされる。
4. 紫外線を用いる。

あ 17-94　温熱療法で直接深部を温めるのはどれか。

1. ホットパック
2. パラフィン浴
3. 赤外線
4. 超音波

あ 20-95　温熱療法の禁忌はどれか。

1. 関節拘縮
2. 知覚鈍麻
3. 呼吸機能障害
4. 痙性麻痺

あ 20-94　デローム・ワトキンス法で用いる運動療法はどれか。

1. 漸増抵抗運動
2. 等速性運動
3. 持久力運動
4. 持続伸張運動

あ 22-95　整形外科手術と術後の理学療法との組合せで正しいのはどれか。

1. 前腕骨観血的整復固定術 ―――― 患肢荷重訓練
2. 頚椎椎弓形成術 ―――――――― 頚椎牽引
3. 人工股関節置換術 ―――――――― 神経筋促通法
4. 前十字靭帯再建術 ―――――――― 大腿四頭筋筋力訓練

あ 23-81　筋萎縮を予防する目的で用いる物理療法はどれか。

1. 超音波療法
2. 赤外線療法
3. ホットパック
4. 低周波電気療法

あ 24-81　温熱療法の効果はどれか。

1. 痙縮増強
2. 末梢血管収縮
3. 組織代謝亢進
4. 筋スパズム増強

あ 28-82　温熱療法の分類で深部熱に属するのはどれか。

1. 渦流浴
2. 極超短波
3. ホットパック
4. パラフィン浴

【リハビリテーション】

あ 6-97　リハビリテーション領域で福祉事務所が主たる役割を担っているのはどれか。

1. 医学的リハビリテーション
2. 社会的リハビリテーション
3. 教育的リハビリテーション
4. 職業的リハビリテーション

あ 8-97　経済的問題の解決を図るリハビリテーションの分野はどれか。

1. 医学的リハビリテーション
2. 教育的リハビリテーション
3. 社会的リハビリテーション
4. 職業的リハビリテーション

あ 9-98　リハビリテーションにおける目標の設定で誤っているのはどれか。

1. 疾病の治癒を目指す。
2. 障害者のニーズに応じて行う。
3. 最大限の身体機能を予測して行う。
4. 補装具製作を計画に入れる。

あ 14-95　リハビリテーションの理念として誤っている記述はどれか。

1. 障害者も健常者も一緒に社会で生活する。
2. 障害者が日常生活で必要に応じて健常者の助けを借りる。
3. 障害者と高齢者では人間としての社会的価値は異なる。
4. 障害者の自己決定権は尊重される。

あ 18-91　地域リハビリテーションについて正しい記述はどれか。

1. 行政機関は関与しない。
2. 自宅での ADL 自立を目的とする。
3. 障害児は対象とならない。
4. 地域住民も協力する。

あ 21-91　医学的リハビリテーションに該当するのはどれか。

1.　回復期リハビリテーション
2.　就労移行支援
3.　特別支援教育
4.　通所リハビリテーション

あ 21-92　医学的リハビリテーションを担う職種とその内容との組合せで正しいのはどれか。

1.　理学療法士 ――― 嚥下訓練
2.　作業療法士 ――― 自助具作成
3.　言語聴覚士 ――― 利き手交換
4.　義肢装具士 ――― 装具処方

あ 22-92　急性期リハビリテーションとして行うのはどれか。

1.　調理訓練
2.　入浴動作訓練
3.　座位保持訓練
4.　書字訓練

あ 26-84 急性期リハビリテーションとして適切でないのはどれか。

1. 拘縮予防
2. 早期離床
3. 体位ドレナージ
4. 家事動作訓練

あ 27-79　社会的リハビリテーションに該当するのはどれか。

1.　職業訓練
2.　障害者支援施設利用
3.　特別支援教育
4.　廃用症候群予防

あ 25-80　維持期リハビリテーションで主に取り組むべきことはどれか。

1.　麻痺の回復の促進
2.　ＡＤＬの早期獲得
3.　社会参加の促進
4.　早期離床

あ 26-87 回復期リハビリテーションで主に作業療法士が行う項目はどれか。

1. 摂食嚥下訓練
2. 実用的移動手段獲得
3. 床上動作訓練
4. 拘束運動療法(CI 療法)

あ 27-80　リハビリテーションについて正しいのはどれか。

1. 安静のため発症後 1 週間は行わない。
2. 急性期から介護保険の利用が可能である。
3. 回復期には機能訓練を積極的に行う。
4. 高齢者では維持期のリハビリテーションは不要である。

あ 28-80　回復期リハビリテーション病棟で医療チームの構成メンバーとなるのはどれか。

1. 柔道整復師
2. 義肢装具士
3. ジョブコーチ
4. ケアマネジャー